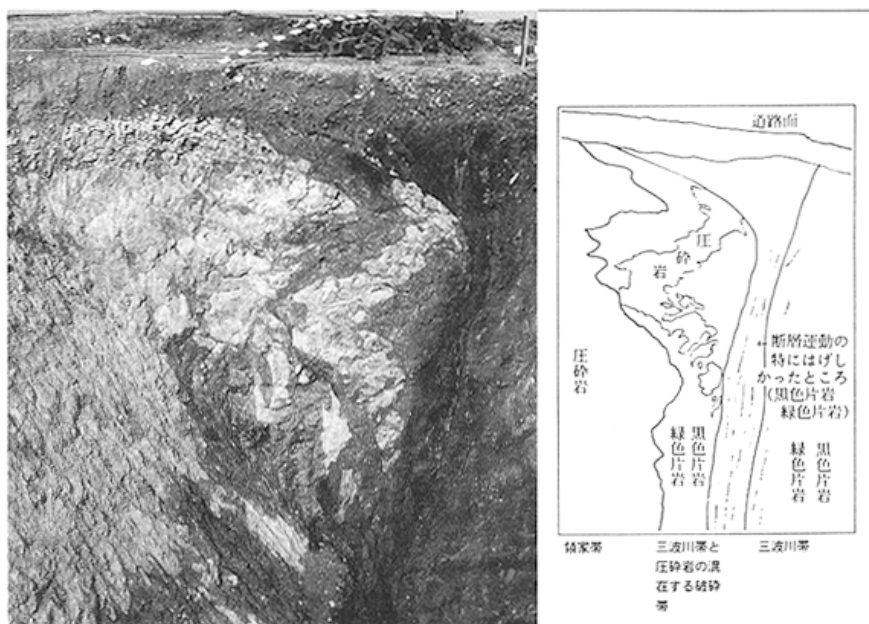




(鳳来寺山自然科学博物館蔵)

東三河の母なる豊川は、紀伊半島の紀ノ川や四国の吉野川と同じように中央構造線の弱部に刻まれた川です。

人口衛星で撮った写真を見ると、大断層・中央構造線の活動のあとが川や谷のつらなりとなって現われ、その規模の大きさに驚かされています。

平成7年、鳳来町の役場近くで河川改修が行われた時、中央構造線を直角に横切る断面が現れました。

地上では、中央構造線の活動の激しさはなかなか感じにくいのですが、この露頭では、断層活動によって岩が砕かれたり、おしつぶされて片状になってしまったり、粘土にまでなってしまう様子がよくわかるものでした。

中央構造線の活動の様子を伝える見事な露頭ということで、県の補助を受けて、レプリカが作製され、平成八年より鳳来寺自然科学博物館のロビーで展示しています。

(鳳来寺山自然科学博物館 加藤貞亭)

目次

- 平成8年度東海三県博物館協会交流研修会報告 2
- 平成8年度部門別研修会報告 2.3.4
- 新規加盟館紹介 5

平成 8 年度

東海三県博物館協会交流研修会報告

第21回東海三県博物館協会交流研修会が、10月3日(木)～4日(金)愛知県瀬戸市の愛知県労働者研修センターで開催され、参加館54館(愛知県31館・岐阜県10館・三重県13館)65名の出席がありました。

以下研修会の概要を報告します。

第1日目

1. 会長挨拶…福田清彦氏
(愛知県陶磁資料館館長)
来賓挨拶…永谷敏夫氏
(県教委・文化財課課長)
2. 講 演
①これからの美術館をめざして
講師…衛藤 駿氏(岡崎美術館)
②豊田市美術館について
講師…青木正弘氏(豊田市美術館)
3. 研究協議
テーマ…これからの博物館「ユニークな博物館活動」
事例発表者
①三重県
四日市立博物館天文係主幹鈴木晴美氏
②岐阜県
斎藤美術館館長斎藤雅人氏
③愛知県
師勝町歴史民俗資料館学芸員市橋芳則氏



4. その他

来年度22回東海三県博物館協会交流研修会の開催される岐阜県代表より挨拶がありました。

研修終了後、引続き懇親会が開かれました。

第2日目

見学会

- ①豊田市美術館
- ②愛知県陶磁資料館

平成 8 年度

歴史・民俗部門研修会

平成九年二月二十五日、武豊町中央公民館及び同町歴史民俗資料館を会場として、愛知県博物館協会の部門別研修会(歴史・民俗部門)が開催された。平成八年度のテーマは、「鉄から鉄器へ」とし、製鉄と鍛冶の技術に焦点を当てた。

内容は、講義を中心にし、それに合わせる形で小型炉による製鉄実験とVTRの上映を行った。講義は「鉄はどのようにしてできるか」を大同工業大学名誉教授の横井時秀氏、「農鍛冶の世界一村のくらしと鉄器」を安城市歴史博物館の学芸係長、斎藤卓志氏にお願いした。後者はもちろん、「鉄器はどのようにしてできるか」というテーマでもある。



歴史・民俗系の博物館にとって、鉄製農具や武器は、きわめて馴染みの深い資料である。しかし、それらがどのようにして形になったものか、一応の知識は備えていても意外に知らないものである。製鉄は大規模工場において国家的産業に発展しており、村の鍛冶屋も次々と姿を消し、変貌してしまっている。

横井氏の講義では、製鉄原料の種類、製鉄の技術とその原理、そして技術の変遷がたどられ、前近代の技法として小型立形炉による製鉄法が示された。同氏は、これまでこの方法で身近な原料である鬼板・赤泥による製鉄実験を試み成功している。今回も同氏の指導と武豊町歴史民俗資料館の奥川弘成氏の協力を得て鬼板を原料とする実験を実施し、講義の合間に見学を行った。

斎藤氏は、平成八年に講義と同名の展示を中心となって開催されており、その展示に至る過程で得られた問題点や、残した課題を提起された。そして、同展とともに制作された記録ビデオでは備中鍛冶を中心に鍛冶職の技術が判り易く示された。

冷え込んでいた奇候も研修会前日から急に春めき、当日は好天であった。参加者は四十一名で愛博協加盟館以外でも愛知県内の中学校教員や同埋蔵文化財センターの調査研究員の参加があった。

製鉄実験は無事終了し、投入原料六kgに対し二kg弱の鉄を得ることができた。この実験の準備は、中野が担当し、二月頃から野山を歩いて鬼板を集め、ゴミ焼却炉で焙焼すること数回、それをハンマーで砕き、鉄を含有するものと、そうでないものを選別した。しかし、採集した鬼板は、砂や泥が多く、なかなか良好なものが集まらず、結局1kgをなんとか作ったところで本番になってしまった。残りの5kgは横井先生が採集されたもので、先生の力にすがってしまった。鬼板6kgぐらいと高をくくっていたのが失敗のもとであった。さらに、木炭の入手にも苦勞した。ホームセンターで買いもとめたバーベキュー用の炭は、意外にも良質で製鉄には不向きなものであった。もっと粗悪な炭を求め常滑の石炭商に住居床下に敷く健康商品を手配してもらい、こちらはなんとかうまくいった。

研修会に参加された方々の中には、自分たちもやってみたいという意向を持った方もあると伝聞した。原料・材料の準備は、それほど楽ではありません。油断大敵雨敵。そして鉄というものが普段とは違った見え方になることは受け合います。

常滑市民俗資料館
中野晴久

平成8年度

美術部門研修会報告

平成9年2月20日(木)、昭和美術館において愛知県博物館協会美術部門の研修会が開催されました。今回は、例年とやや趣が異なり、人間の行動を内側から考えるよい機会でした。以下、その内容について報告いたします。毎年、盛り沢山の内容を企画していただく昭和美術館の皆様をはじめ、この機会を設けてくださった関係者の方々に感謝いたします。

1. 「性差の心理学」

講師：泉ひさ氏（南山大学名誉教授）

感覚・知的能力・情緒と欲求・人格などから男女の違いをみて、その行動や生き方を考えるという大変難しい心理学のテーマである。能力の違いには先天的素因もあれば、その後の教育や生理的要因もある。男女差の調査例に顔く人も多かったが、30年前と比較して10代の男女間の読書内容に差がなくなってきたことが示すように、一般的には、意識の面で男女の差は縮まりつつあり、出生数の減少が今後ますます社会を変えていくものと思われる。不満を内に秘めることの流行らない昨今、家庭でも職場でも、不協和音を耳にすることが多い。どうしてこんなに違うのだろうという疑問も、統計的に分析をされればなるほどと納得できることもある。少し距離を置いてみれば、他者への理解も深まり、心のゆとりになるのではないかと、結構興味深く拝聴した。



2. 「ワシ、鷹から得る博物学」及び「博物館の使命」

講師：中島欣也氏（日本ワシ鷹研究センター所長）

長年にわたりワシ・鷹一筋に研究並びに実践を

してこられた経験から、現代の知識人・学芸員の在り方にまで言及した、その大阪弁のリズムも相まって軽快ながらも辛口のお話であった。中途半端な知識による自然保護活動はかえって弊害を招くとの指摘は、その専門研究に裏付けられた言葉であろう。専門職とは1日24時間その仕事に責任がもてる人という。それをひいて、専門職としての学芸員は、元の研究分野が何であれ、自館のコレクションに関しては何でも知り、その愛情は誰にも負けないだけの気概が要求される。

欧米では、学芸員の権威は高く、大学教授すら学芸員の許可を得なければ発表できないほどだが、逆に日本におけるその地位は低いといわれる。わが国では最近、上級学芸員という、資格の面からその在り方を検討しようという動きがあるが、資格試験を厳しくすれば質が高まるかという必ずしもそうとはいえない。実務経験者に勝るものはないと思う。本来、博物館の仕事は研究職に属しており、一過性のものではないが、入館者数の多少や目に見える展示会の数だけでその館の質を問われる傾向にあるようだ。

食物連鎖の頂点に立つ鷹類の卵の殻は、環境破壊の影響を受け、過去百年以上のデータから見ると確実に薄くなり自力孵化の不可能なものが多いという。そのことを知り得るのも、西欧の王室に残された、或卵コレクションの恩恵である。博物館の仕事の価値あるいは好例といえよう。コレクションは博物館の原点であるが、残念ながら自力収集の能力を持たぬ所も多い。バブル経済のはじけた後、特に公立館の肩身は狭い。今こそ、博物館の存在意義について議論されるべきであろう。



3. 「色彩学」展示施設との調和

講師：浜田真美氏（株式会社サンゲツ）

色に対する人間の習性、色の好みによって人間

の性格・キャラクターをつかむコツ、そして色彩が生体に与える生理学的変化と効用について、インテリアデザインの専門的見地からの報告である。人は明るい色を探す癖があり、色の繰り返しのリズムは心地良さを与える、そして色彩の違いが人に生理的変化をもたらすなど、「色彩学」の話は看板や展示室の色調を考える上で参考になる。

4. 「ブラックマット（写真、ネガフィルム、スライド等の専用整理ファイル）について」

講師：近藤智宣氏（株式会社ケンコー）

貴重なフィルムにいつの間にか黴が生えていたり、退色していた、そんな経験は誰でも持っている。写真類の整理はいずれ暇な時にと、どうしても後回しになりがちであるが、大切な作業である。写真整理用品の分野は昔からそれほど進歩していないので、もっと新製品の開発を望みたい。

5. 「収蔵品の保護シートについて」

講師：守口哲哉氏（株式会社中部資材）

収蔵庫といえども埃や黴は避けられず、保存箱などを取り扱っていると手が真っ黒になる。これまでは、はたきをかけたり、やむをえずタオルを濡らせて拭いていたが、水拭きだと湿気が残り、かえって黴の発生を促進し、埃を拡散する恐れがあった。日本文化財環境研究所により開発された除菌用ウェットタオルはアルコール類を主成分とするもので、保存箱、棚、展示ケースなどの清掃に適した製品である。

毛受英彦（一宮市博物館）

平成8年度

自然科学部門研修会報告

愛知県博物館協会自然科学部門研修会が2月27日に開催されました。天気は快晴のうえに、ぽかぽか陽気で、フィールド調査には絶好のコンディションでした。集合場所の鳳来町役場では、町長および教育長までがご挨拶頂くほどの歓迎ぶりでした。講師は鳳来寺山自然科学博物館館長の横山良哲氏。このあたりの地質を知り尽くしておられるだけでなく、たいへんお話が上手で、感心しました。横山さんのお話を聞いていると、本当に科学が楽しいもののように思えてきます。我々のように科学知識の普及を目指す者としては、横山さんのように話術も磨いて「科学の伝道師」となりたいものです。

さて、最初に見学したのは、最近露出したとい

う中央構造線の露頭です。地球科学に関心ある人なら、ふんふんに関心してしまうところでしょう。緑っぽい圧砕岩と黒っぽい結晶片岩が低魚の断層で接している様子ははっきりと観察できます。

その後、河床でハマグリ及びカガミガイの化石の採集を行いました。経験者が少ないこともあってか、おとなしい採集風景でしたが、それでもガバッと大きく割れた岩石をひっくり返したところに大量の化石が現れると、歓声が上がり盛り上がりました。



午後は、採集した化石を鳳来寺自然科学博物館に運び、クリーニングを行いました。リンドバッグの上に化石を固定してハンマーとたがねで化石をきれいに掘り出します。細かい作業に飽きたら、博物館で用意して下さった特大のサンプルを、特大のハンマーで割ります。割れると化石がざくざく出てきて、またまた歓声があがります。割った本人はたいへんストレス発散にもなっていたようです。

分かり切っていることですが、市民に対する自然科学への興味喚起は、やはりフィールドに連れていくことだということをこの研修を通じて、改めて実感しました。自分で採集した化石は、やはりそれが何の化石であるか気になります。最近、化石や鉱物採集ができる職場が少なくなっていますが、鳳来寺周辺はまだまだ子供たちを連れていく価値がありそうです。

西本昌司（名古屋市科学館 学芸員）

新規加盟館紹介

平成8年度に当協会へ加盟されました館の概要を紹介します。

八丁味噌史料館



所在地 ㊧444-91

岡崎市八帖町往還通69番地

電話 (0564) 21-1355

交通 愛知環状鉄道「中岡崎駅」名鉄「岡崎公園前駅」から徒歩2分

概要 当家の創業以前から豆味噌の醸造技術はありましたが、商売として成り立つようになったのは、17世紀半ばと言われます。この伝統の味噌造りが一目でわかるように「史料館八丁味噌の郷」を計画しました。建物は明治40年にできた味噌蔵で、一階の床面積だけで90坪もあり、当社で最も大きな蔵です。最大の展示は仕込みの場です。江戸時代から昭和16年まで踏襲されてきたこうした製造工程が再現されているほか、昔の店構え、広重が矢作橋を描いた浮世絵、天保10年（1839年）に作られた6尺（仕込み桶）、6尺を作ったときに用いた4.6mの大かんなど、展示されている。

開館 9:30～16:00

休館日 お盆・正月休み以外は無休

入館料 無料



ルイス・C. ティファニー美術館



所在地 467

名古屋市瑞穂区弥富町字円山 8 番地

電話 (052) 836-2000

交通 地下鉄鶴舞線「八事」駅下車 2 番出口より西へ（石川橋方面）徒歩 5 分 金山総合駅前より市バス「名古屋大学前」行「雲雀ヶ岡」下車徒歩 1 分。お車でのお越しのお客様は地下駐車場もあります。

概要 当美術館は L.C. ティファニーの作品を収

蔵している、世界一の国際的な美術館として 19～20 世紀装飾美術の研究家で特に L.C. ティファニーの研究では世界の第一人者といわれている J. アラスター・ダンカン氏によって認められています。きっと L.C. ティファニーの作品の魅惑的な色彩は、あなたのインスピレーションをかき立てるでしょう。L.C. ティファニーの、絶え間ない美の追究によって生み出された奥行きが深く、かつ領域の広い作品の数々は、大別して 12 の芸術分野に分類することができます。当美術館では、この 12 の分野を収集しました。

開催 11:30～20:00

（入場は 19:30 まで）

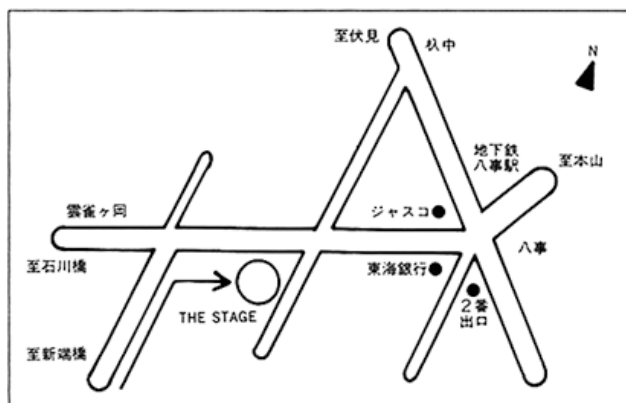
休館日 毎週火曜日（祭日は開館します。）

入場料 一般 1,000 円（800 円）

高・大学生 800 円（600 円）

小・中学生 600 円（400 円）

（ ）内は 20 名以上の団体割引料金です。



「愛知の博物館」No.65

発行日 平成 9 年 3 月 31 日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒489 愛知県瀬戸市南山口町 234 番地

愛知県陶磁資料館内

TEL<0561> 84-7474

FAX<0561> 84-4932